

トビウオ通信 (12月号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。)

<http://www2.pref.shimane.jp/suisi/> (TEL 0855-22-1720)

10月に発表されたスルメイカ冬季発生群の長期予報と平成16年12月に新潟市において開催された漁海況予報会議内容をもとに、スルメイカの漁況予測(H17年1月~H17年4月)を行うとともに平成16年の浜田港におけるイカ釣りの漁獲動向を報告します。

《平成16年度冬季スルメイカの漁況予測》

スルメイカの2つの系群

スルメイカには秋季に山陰沖から九州西海域において産卵する秋季発生群と冬季に九州西海域で産卵する冬季発生群の2つの系群があります。いずれも成長しながら北海道周辺からさらに北方海域を回遊し、1年間で元の産卵場に戻ってきます。

これから山陰沖で漁獲されるスルメイカは、産卵のために戻ってきた冬季発生群が中心になります(図1参照)。

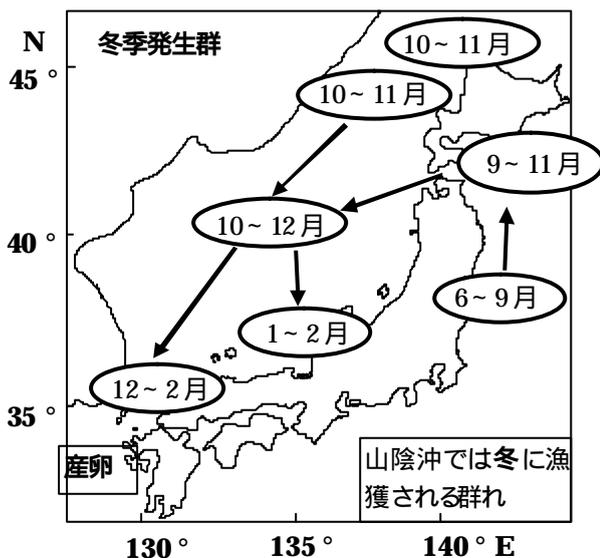


図1 冬季発生群スルメイカの回遊パターン

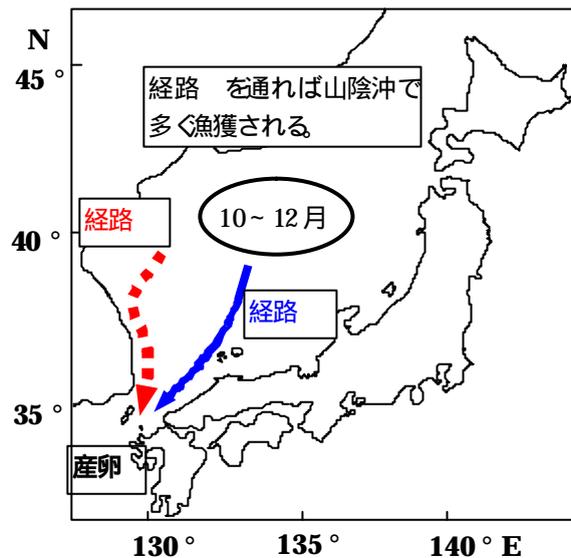


図2 スルメイカの南下経路パターン

冬季の漁模様のカギを握るのは、南下経路！！

近年の冬季発生群の資源水準は良好で、中~高位水準にあります。11月に入って大和堆南西海域において冬季発生群を対象とした漁場が形成され活発な漁模様となっており、鳥取県境港では前年を大きく上回る水揚げとなっています。12月中旬には、漁場はさらに南下し、竹島の東から南の海域及び隠岐諸島周辺海域にも漁場が形成されるようになりました。

今後の山陰沖の漁模様は、図2に示すように、スルメイカが産卵場である九州西海域へ南下する際に、山陰沖の経路(経路)を通るのか、朝鮮半島沿いの経路(経路)を通るのかに大きく左右されます。山陰沖の経路を通して南下すれば漁場が形成され漁獲も好調に推移すると考えられますが、平成15年年度冬季(H15.12~H16.2)のように朝鮮半島沿いの経路を通して南下すれば山陰沖では不漁になると考えられます。

現時点での漁場形成を平成 15 年度冬季と比較すると、昨年は見られなかった竹島の南方海域や隠岐諸島周辺海域に漁場形成が見られることや 12 月に入って浜田港でもややまとまった漁獲が見られていることから、昨年よりは期待できるのではないかと考えられます。

《平成 16 年浜田港におけるイカ釣りの漁獲動向》

浜田港に水揚げするイカ釣(5 トン未満)、小型イカ釣(5 トン以上 30 トン未満)、中型イカ釣(30 トン以上)におけるスルメイカの漁獲量と金額、月別漁獲動向を図 3 に、ケンサキイカ(シロイカ)の漁獲量と金額の動向を図 4 に示しました。尚、平成 16 年は 11 月までの集計値です。

スルメイカは大幅減少

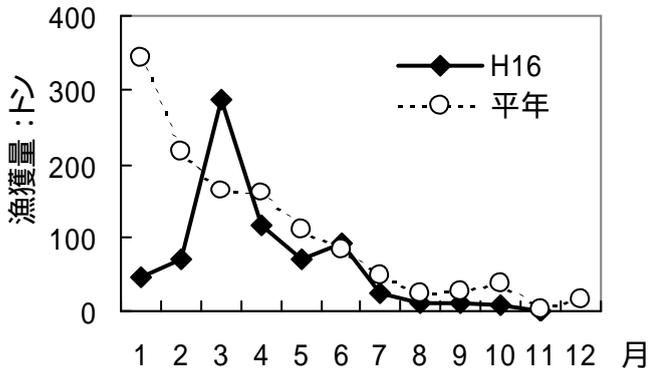
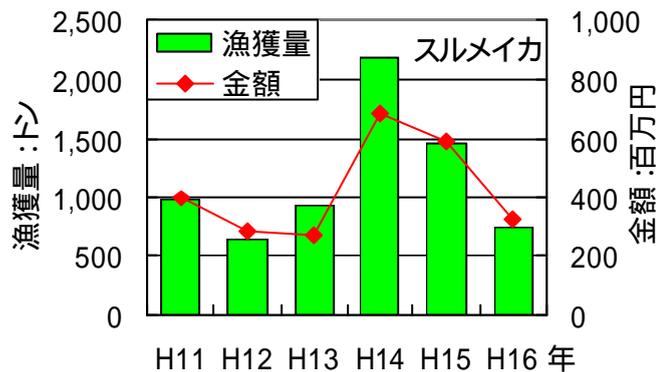


図3 浜田港にイカ釣り漁業によって水揚げされたスルメイカの漁獲動向 (H16は11月までの値)

浜田港におけるスルメイカの漁獲量は、平成 14 年に 2,178 トンに急増した後、2 年連続で減少しました。平成 16 年は 11 月までの累計値が 731 トンで、前年同時期の 50%、平年(過去 5 年平均)の 60% に留まりました。

水揚金額は 3 億 2,424 万円で、前年同時期の 55%、平年の 73% でした。これは漁獲量の減少により、平均単価が 444 円/kg と前年より 10%、平年より 23% 上昇したためです。

平成 16 年の月別の漁獲動向を見てみると、平年と比較し 1、2 月の漁獲が非常に少なくなっていました。これは前段で紹介しました冬季発生群が漁獲対象となる時期で、平成 16 年は産卵場への南下経路が極端に朝鮮半島沿いであったため、山陰沖にはわずかししか来遊して来なかった結果だと考えられます。

その後、3 月には平年を上回る漁獲が見られたものの、4 月以降は平年並みから平年を下回って推移しました。12 月に入ってややまとまった漁獲が見られており、今後の漁獲が期待されます。

ケンサキイカも減少し、平年並み

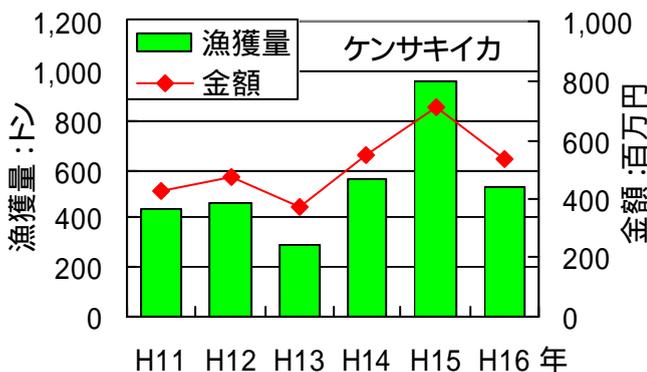


図4 浜田港にイカ釣り漁業によって水揚げされたケンサキイカの漁獲動向 (H16は11月までの値)

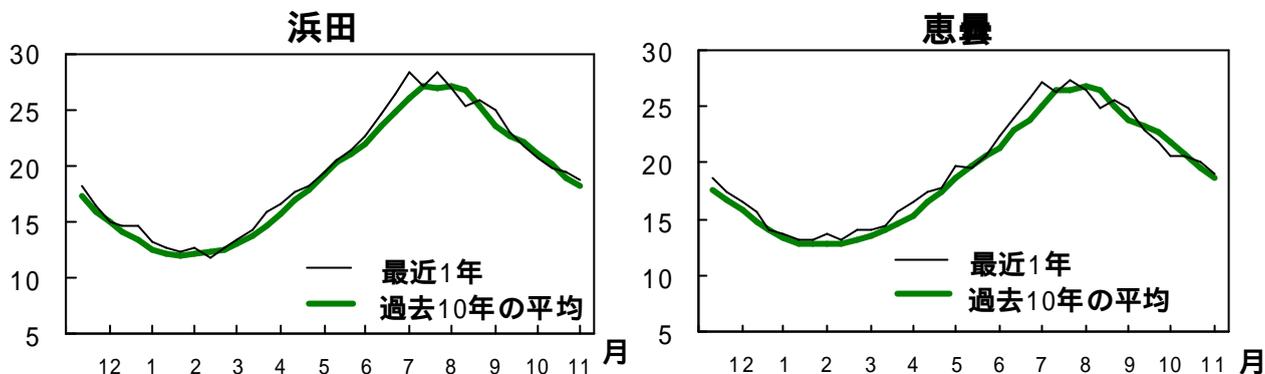
浜田港におけるケンサキイカの漁獲量は昨年まで 2 年連続して増加していましたが、平成 16 年は 11 月までの漁獲量が 537 トンで、前年同時期の 56% に留まり、平年並みとなりました。

水揚金額は 5 億 3,496 万円で、前年同時期の 79%、平年の 108% でした。平均単価は 1,015 円/kg で前年より 37%、平年より 8% 上昇しました。

《 11月の海況 》

11月	月平均	平年差	評価
浜田	19.3	+0.3	平年並み
恵曇	19.8	+0.2	平年並み

11月の平均水温は浜田、恵曇ともに20を下回り19台となりました。10月は両地区ともに平年を下回っていましたが、11月は暖冬等の影響により平年を上回り、「平年並み」の水温となりました。



島根・鳥取県の各水産試験場が実施した海洋観測結果(11/24~11/30)によると各層の水温は、表層(0m)が15.8~20.8(平年差は-1.0~+2.6)、中層(50m)が13.1~20.4(平年差は-3.2~+3.0)、底層(100m)が4.7~20.6(平年差は-6.6~+3.8)となっていました。

表層水温は16~20前後で、沿岸から隠岐諸島付近の海域では約20の水温分布となり、平年より2前後高くなっていました。中、底層では、島根冷水域が前月よりも南下する傾向が見られましたが、依然沖合に留まっています。そのため、広い範囲で平年を1.2~3.8上回りました。

山陰沿岸海域の水温は、表層では「やや低め~はなはだ高め」、中層では「やや低め~はなはだ高め」、底層では「かなり低め~かなり高め」となっていました。

＜エチゼンクラゲ情報＞ ==今年、ほぼ終了~!・・・でしょう!?!==

12月に入り島根県沿岸では、ほとんどエチゼンクラゲを見なくなりました。

11月以降、対馬東側海域で操業している沖合底びき網にもまとまった入網が見られないことから、今年のエチゼンクラゲの日本海への来遊は、ほぼ終わったものと思われます。

《 11月の漁況 》

【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量は、マアジ、マサバ主体に1,261トン、総水揚金額は9,760万円でした。1統当りの漁獲量は420トンで、平年(過去5年平均)の192%、前年の535%でした。同じく水揚金額は3,253万円(平年の133%、前年の165%)でした。浜田ではマサバの漁獲量が平成11年以降最高でしたし、マアジの漁獲も好調でした。西郷では、ブリ、マアジ、マサバ主体に総漁獲量4,629トン、総水揚金額は5億1,425万円でした。1統当りの漁獲量は771トン(平年の134%、前年の96%)、水揚金額は8,571万円(平年の191%、前年の174%)となりました。西郷では11月になり再びブリが多く漁獲され、平均単価も238円/kgと昨年の3倍以上であったことから水揚金額は平年を大きく上回りました。浦郷ではマアジ主体に総漁獲量2,976トン、総水揚金額は1億6,123万円でした。1統当りの漁獲量は744トン(平年の275%、前年の132%)、水揚金額は4,031万円(平年の177%、前年の119%)でした。

【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、ケンサキイカを中心に6.6トンで平年の51%、前年の29%、水揚金額は953万円(平年の81%、前年の32%)に留まりました。これは、11月に入りケンサキイカの漁獲量が減少したこと、スルメイカの漁場が大和堆周辺に形成されたため浜田港に水揚げする船が減少したためです。西郷のイカ釣船(5トン以上)の漁獲量はスルメイカ主体の41トン(平年の67%、前年の69%)となりました。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではムシガレイ、アンコウ、アナゴ・ハモ類、キダイが漁獲の中心でした。1統当り総漁獲量では46%、

水揚金額では18%前年同月を上回りました。カレイ類では、ムシガレイが前年の漁獲量を10%上回りましたが、ヤナギムシガレイは22%下回りました。また、アンコウは36%、アナゴ・ハモ類は45%上回りました。

恵曇港ではヤナギムシガレイ、アンコウ、アナゴ・ハモ類、キダイが漁獲の中心でした。1統当り総漁獲量では前年を70%、水揚金額で29%上回りました。魚種別ではヤナギムシガレイが10%前年漁獲量を上回り、アンコウは約2倍、アナゴ・ハモ類では約2.5倍の漁獲がありました。

【小型底びき網漁業】

大田市漁協では、前年と比較して漁獲量は9%、金額は33%上回りました。主な漁獲物はキダイ、ニギス、アンコウで、キダイは前年同月の漁獲量を87%、アンコウは38%それぞれ上回りましたが、ニギスでは前年を12%下回りました。

和江漁協では前年と比較して漁獲量で43%、金額で42%上回り、キダイ、アンコウ、イボダイが主に漁獲されました。キダイは前年の2.7倍、アンコウでは1.5倍程度の漁獲がありました。

カレイ類は両漁協とも前年を上回り、1.5倍～2倍の漁獲があり、なかでもソウハチガレイは水揚金額に占める割合も高くなっています(大田市11%、和江17%)

【定置網漁業】

各地区で、漁獲量・水揚金額とも前年および平年を下回りました。各地区ともマアジが主体で、前年の1.2～2.7倍の漁獲量となっています。その他に県東部ではサワラ類、カワハギ類、アオリイカなどが漁獲され、サワラ類、アオリイカは前年の約2倍の漁獲量となっています。県西部ではブリ、ソウダガツオが漁獲され、ブリは前年の2割程度の漁獲量となっています。隠岐ではカワハギ類などが漁獲されています。

【釣・縄】

県東部では漁獲量・水揚金額ともに前年および平年を上回りました。県西部では漁獲量は前年および平年並でしたが、水揚金額は前年および平年を下回りました。隠岐では漁獲量・水揚金額ともに前年並で、漁獲量は平年を下回りましたが、水揚金額は平年を上回っています。県東部ではサワラ類が主体で、前年の約3倍の漁獲量となっています。その他ではブリ、アオリイカ、ケンサキイカなどが漁獲されています。ブリは前年の3割程度の漁獲量となっています。県西部ではクロマグロが主体で、先月に引き続き前年を大きく上回る漁獲となっています。その他ではブリ、メダイ、シイラなどが漁獲されています。隠岐ではクロマグロ、メダイ、ソデイカが主体となっています。クロマグロ、メダイは前年の約2倍の漁獲量となっていますが、ソデイカは前年の5割程度の漁獲量となっています。

漁獲統計

平成16年11月1日～30日

漁業種類	水揚港	延隻数・統数	主要魚種	1隻(統)1航海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	42	マアジ・マサバ	30トン	1,261トン
	西郷	96	ブリ・マアジ	48.2トン	4,629トン
	浦郷	67	マアジ	44.4トン	2,976トン
イカ釣り (5トン以上)	浜田	192	ケンサキイカ	34kg	6.6トン
	西郷	-	スルメイカ	-kg	40.5トン
沖合底びき網	浜田	24	ムシガレイ、アンコウ	13.7トン	327トン
	恵曇	17	ヤナギムシガレイ、アンコウ	6.3トン	106トン
小型底びき網	大田市	330	キダイ、ニギス、アンコウ	530kg	175トン
	和江	455	キダイ、アンコウ、イボダイ	735kg	335トン
定置網	浜田	55	マアジ、ソウダガツオ、ブリ	873kg	48.0トン
	美保関	125	マアジ、サワラ類、カワハギ類	451kg	56.4トン
	浦郷	57	マアジ、カワハギ類、ウルメイワシ	139kg	7.9トン
釣・縄	浜田	1314	ブリ、メダイ、サワラ類	17kg	22.9トン
	五十猛	462	クロマグロ、シイラ、ブリ	41kg	18.8トン

: 1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量÷延隻数・統数で算出しており、四捨五入した値です。